

令和4年度 学力向上指導改善プラン

三田市立藍小学校校長 足立 延也

学校教育目標		「心豊かにたくましく共に生きる児童の育成」		4月			2～3月		
推進主体		校内研究推進委員会		学力向上に向けての重点的な目標	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	年度末評価 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)		評価
学力に関する前年度の状況・経年の課題等									
学 力 の 状 況	全国学力・学習状況調査結果の状況 (国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	◆【国語科】全ての領域、観点で全国平均を下回った。特に「書くこと」の課題が顕著となった。 ○「話すこと・聞くこと」の目的や意図に応じ資料を使って話す問題の正答率が全国より高く、日常的なスピーチ等の取り組みにより力が伸びている。「読むこと」の要約問題に成果が見られ、言語活動により読む力が伸びている。	○全国学力・学習状況調査の誤答分析を生かした授業改善を、全教科で進める。	○国語、算数における記述問題の正答率が昨年度実績を上回るようにするとともに、無回答率を下げる。	○1時間の授業の中に、子どもが思考する過程を意図的に組み込む。 ○自分の考えや意見を書く学習活動を積極的に取り入れる。 ○全教員での全児童の誤答分析から、思考の過程での立式の意味、計算で出された数値の意味を考える力の不足等の課題を抽出し、分析後作成した授業評価シートを基に組織的に授業改善を進める。	○【国語科】全ての領域及び評価の観点において全国平均を上回り、「話すこと・聞くこと」の領域において特に成果があった。 ◆評価の観点別及び問題形式別においては、記述式設問に課題があり、必要な情報をぬき出す力、大切な言葉を取り上げて表現する力、推論したり解釈したりする力に課題がある。 ◆【算数科】全体として全国平均をわずかに下回った。領域別では、「図形」「変化の関係」領域に課題が見られた。 ○【算数科】設問16問中11問が無回答率0%、5問が無回答者1名が示すように、粘り強く問題に取り組もうとする「学びに向かう力」が育ちつつある。	A	B
		算数 数学	◆【算数科】全ての領域、観点で全国平均を下回った。特に「測定」及び「データ活用」の課題が顕著となった。 ○面積の求め方等の記述式問題で全国平均を上回り、自分の考えを表現する力が伸びていることや思考する力の底上げが図られつつある。						
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	◆自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができるかを問う質問紙調査の肯定的回答が低かった。さらに対話型の授業を重視するとともに、日頃の学級活動等で、意見を言い合ったり、認め合ったりする活動を行うことで、自己表現しやすい環境を整えていく必要がある。		○問題解決型の授業構成を中心とした探究の過程と対話活動を大切に授業改善	○質問紙調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定評価で、昨年度の実績を上回る。 ○タブレット端末を活用し自ら情報や資料を集め、必要かつ適切な情報を選択する授業の充実を図る。	○一斉指導中心ではなく、対話を重視した、協働学習中心の授業改善を図る。 ○授業公開、授業参観を活性化し、互いに高め合える職員集団を作る。 ○協働学習におけるICTの活用方法を模索し、学習における対話活動の充実を図る。 ○タブレット端末を活用し自ら情報や資料を集め、必要かつ適切な情報を選択する授業の充実を図る。	○質問紙調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定評価が90%で昨年度実績を上回った。 ○質問紙調査「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」の肯定的評価が100%で、授業中ICT機器をよく活用できている。 ◆全児童の誤答分析から、問題の中から、情報を整理して必要な情報を切り取る力に課題が見られ、情報選択に関する課題は継続している。	A	B
	授業等からうかがえる状況(各教科)	◆タブレット端末を積極的に使い調べ学習に活用しようとする姿がみられるものの、たくさんの情報の中から必要な情報や適切な情報を選択できていないことも多い。			○ミライシードを活用した協働的な学習が実施できている。(中学年以上)				
習 得 の 上 昇 状 況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	○5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器を週1回以上活用したという質問項目では、全国平均を大きく上回った。		○読書活動の量・質の向上	○昨年度の実績である、貸し出しは低：平均80冊以上、中：平均50冊以上を上回ることを目指す。	○全校一斉読書タイムを充実させる。 ○図書室やICTを活用した調べ学習の実施。 ○学校司書を中心に、調べ学習における図書室の活用を図る。 ○ICT機器の取扱いに慣れ親しむ(低学年)とともに、個別学習だけではなく協働学習においてもミライシードを積極的に活用する(中学年以上)。	◆学校図書館の貸し出し実績(2月末)は、低・中ともに昨年度実績を下回った。 ◆質問紙調査で「読書が好き」な児童は約80%であるが、「1日あたりの読書時間」は10分未満の児童が約70%となった。来年度から朝の一斉読書タイムを設定する方針である。 ○国語科の学習と関連付けた読書活動に、学校司書と連携を図り全学年で実施できた。 ○全学年においてミライシードの活用が進み、主体的に学習に取り組む児童が増えている。	B	B
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	◆昨年度図書館の貸し出し100冊以上は6人であった。今後、個別最適な学びの提供に向け、学校図書館を有効活用した授業づくりを進めていく必要がある。							
校 内 研 究 ・ 研 修 の 状 況	校内研究の状況	◆全国学力・学習状況調査の誤答分析を通して授業改善の方向性を導き出し、国語・算数の授業改善シートを作成することができたが、このシートの積極的な活用や他教科へ汎化していくことに課題がある。		○1時間(45分)の授業の中で発揮される「学びの力(子どもの問い)」を大切に授業づくり ○研究授業や、全国学力・学習状況調査の誤答分析から得られた学びを、他教科に広げていく。	○年間3回程度の公開研究授業を実施する。 ○ICT機器を活用した授業実践を行う。	○すべての教科・領域の学習において「自分の考えを持つ」ことを重視した学習活動を行う。 ○「もしかしたら」「だぶん」といった曖昧な考えであっても、「まずは書いてみる、やってみよう」といった経験を積ませていく。 ○子どもの「疑問」や、自分の生活経験とのズレからうまれた「驚き」などを取りあげ話題にすることで、子どもが主体的に学んでいけるようにする。(学びに向かう力の向上) ○子どもたちが、ICT機器を思考ツールの一つとして活用しながら考えを深めていくことができるようにする。 ○特別支援教育の視点を取り入れた授業設計を行うことで、個別最適な学び(指導の個別化、学習の個性化)を図る。 ○児童が自己調整しながら学習が進められるよう、デジタル教科書の効果的な活用方法を探る。	○算数科を中心とした校内研究に取組み、全国学力・学習状況調査の誤答分析を基にした授業研究と他教科にも活用できる授業改善シートを作成した。 ○算数科の授業改善が進み、記述式設問での伸びにつながっていると考えられ、思考する力の底上げが図られてきている。 ◆「学びに向かう力の育成」をテーマに、問題解決型の授業研究に取り組んだが、「主体的に学習に取り組む態度」の評価研究には至っていない。教科横断的な視点も加え「学びに向かう力」を育成する研究に転換する方針である。 ◆ICT機器を活用した授業実践は、すべての学年で実施できたが、デジタル教科書の効果的な活用方法を探るには至らなかった。	A	A
	校内研修の状況	◆ICT機器を利用した児童一人ひとりに個別最適化された学びのための、教師の指導スキル、児童の活用スキルの習得がいっそう求められる。 ◆教科における個々の児童の学びの困難さに対応できる教師の指導力向上が求められる。 ◆難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦しているかを問う質問紙調査の肯定的回答が全国平均を大きく下回った。試行錯誤する経験を積ませることで、様々な課題にチャレンジする素地の育成に取り組む必要がある。							
家 庭 ・ 校 種 間 連 携	家庭・地域等の状況	◆「宿題は毎日やっている」の回答が昨年より上昇したが、目標80%を下回った。「自分で学校へ行く用意をしている」も昨年より上昇したが、目標90%を下回った。 ◆タブレットの家庭での活用を進め、授業につながる家庭学習になるよう家庭・地域と連携を深める必要がある。 ○地域コーディネーターと連携を図り、コミュニティスクールの活動充実が図られた。		○家庭における学習習慣の確立	○生活アンケートの「宿題は毎日やっている」という回答を80%以上にする。 ○生活アンケートの「自分で学校へ行く用意をしている」という回答を90%以上にする。	○明確な目標と具体的な計画のもとに取り組める家庭学習ノートの作成と活用。 ○地域コーディネーターと連携し、コミュニティスクールの活動を充実させ、フィールドワーク等を行う。 ○地域人材を活用した“放課後がんばりタイム”での学びを充実させる。	◆生活アンケートの「宿題は毎日やっている」を80%以上、「自分で学校へ行く用意をしている」を90%以上に引き上げるには至らなかった。 ◆家庭学習シートの試作と試行は行ったが、「学びに向かう力」を高めるためのシートに高めることができなかった。 ○家庭学習においてICT機器のドリル機能を有効に活用した取組が進んでいる。	B	
	小・中における教科連携等の状況	○SC・SSWと連携し、合同研修や授業実践を進めたことで、児童が落ち着いて学習できるようになってきている。 ○同一中学校区の小学校と連携し、新教育課程に対応したプログラミング学習を同時期、同内容で進めるなど、中学校進学に向けた連携が図られた。 ○同一敷地内の幼稚園の教育資源を見直し、幼小教育課程の連携による新たな教育プログラム開発を進め、円滑な接続が図られた。							
		○小中学校生活の9年間を見通した学力をつける。		○中学校区共通の目標を設定する。	○中学校卒業時の進路指導を見据えて、自己実現や未来を切り開く力を育てるキャリア教育を行う。 ○中学校区での連携連絡会を開催する。 ○三校研の充実を図り、目指す子ども像を共有する。	○小中一貫教育を見据え、中学校区で家庭学習や授業でのタブレット端末の活用、キャリア教育等について歩調を合わせ推進した。 ○同一中学校校区の小学校と連携し、児童間の交流を進めるなど、中学校進学に向けた連携が図られた。 ○同一敷地内の幼稚園の教育資源を見直し、幼小教育課程の連携による新たな教育プログラムの開発を進め、円滑な接続が図られた。	A		